

県下の交通事故 (8月31日現在)

| 区分 | 事故件数 | 死者 | 傷者 |
|-----|--------|--------|--------|
| 50年 | 2,832件 | 90人 | 3,867人 |
| 51年 | 2,747件 | 70人 | 3,750人 |
| 比較 | -3.0% | -22.2% | -3.0% |



◇ 第 33 号 ◇
 発行所
 甲府市丸の内一丁目6-1
 財団法人山梨県交通安全協会
 TEL 甲府0552-37-7827

交通五悪追放にコレンジャーも出現……電王町。



秋の全国交通安全運動

《9月21日～9月30日》

「ゆつくり走ろう運動」さらに推進

秋の全国交通安全運動は九月二十一日から三十日まで十日間、全国一斉に実施されます。本県でも、県交通安全対策本部をはじめ関係機関や団体が協議した結果、運動の重点を国が重点としている①歩行者、とくに子どもと老人の事故防止②自動車利用者の事故防止③シートベルト着用等の推進のほかに、本県の中心スローガンである「ゆつくり走ろう運動」を加え四本の柱を中心として、県民総ぐるみの運動を展開することになりました。

歩行者の保護とシートベルト着用

出発を早めて安全運転運動のすすめ方として、交通安全教育や生活ゾーン対策の推進、自転車教室や二輪車安全運転講習会の開催、ヘルメット、シートベルト着用等の励行、交通五悪、暴走族の追放、運転者教育の徹底等が行われることになっていますが、とくに、ゆつくり走ろう運動を推進するために、出発時間を早めて、安全速度で運転することになります。

「愛の一声」大会を開催
県交通安全推進協議会で



は、運動の期間中に、県民室を中心に県下八地区で交通安全「愛の一声」運動、交通安全大会を開催し、県民意識の結果と高揚を図ることになっていきます。これは、関係機関、とくに交通関係団体、婦人団体等の参加を求め、いつでもどこでも、だれにでも、その

車から人間優先へ

—全国交通安全運動の歴史— 二十三年から始まる

全国交通安全運動は、昭和二十三年十二月、時の国家地方警察警察庁の前身が主催し、交通安全週間として始められたものであります。当時、占領軍が駐留していた時期で、国産車の製造よりも米軍の私下げによる車両が巷間に見られ、米軍使用車両とともに交通量が徐々に増加をはじめ、これに伴う交通事故が増加のきざしを見せ、なんらかの規制が必要とされ、旧道路法改正法が施行されたのであります。

二十四年から春秋二回の道路法改正法は交通安全と円滑化を目的として制定されたもので、交通安全運動もこの目的を遂行すべく、二十四年から実施されるようになり、全国的に定着化してまいりました。しかし、交通事故の発生が、二十三年の二万件から二十九年には九万件と増加し、いよいよ交通事故に対する社会の関心が高まってきたのであります。

この憂慮すべき状況に対し、政府では総合的対策が急務となり、三十年に「交通安全対策本部」を設置し、各種交通安全対策の推進に努めてきたが、この間、国内の復興は着々と進み、これに伴い人口の都市集中化が進み、とくに都市交通の

分野での対策が叫ばれはじめてのであります。このように事態において、国民運動に発展。政府は、さらなる交通安全と円滑化をはかるため、三十五年に「交通安全対策本部」を設置し、その運営基本方針のなか、交通安全運動の推進が掲げられ、三十七年春の運動からは、内閣総理大臣官房交通安全対策室において「全国交通安全運動実施要綱」が定められ、主催者として総府府などの八省庁に交通安全協会が加わり、さらに都道府県が下地ができたのであります。以来、この運動は国民総ぐるみの運動として着々成果をあげ、主催団体および協賛団体も逐次増加し、現在においては、主催者は十省庁七団体、協賛百一団体という強力な国民運動が展開されるよう成長したのであります。

重点項目の変遷
この運動の重点項目は、三十七年の春の運動以来、歩行者、踏切、車両の整備、道路環境の整備等の対策が重点としてとりあげられ、四十一年には被害者の救済の必要性から相談活動が、また四十二年に至っては、この交通安全の確保が、等どの対策が新たに加えられました。

翌四十四年には、高齢者の安全の確保が加えられ、逐年歩行者、とくに子どもと老人の事故防止に推進され、四十七年に至って従来の点検・規制としてのスクールゾーンの設定が導入され、自転車利用

者の安全対策とともに、四十九年秋には生活ゾーン対策が導入されました。この変遷にみられるように、交通安全は基本的に車優先から人間優先へと変化し、生活環境を確保するための交通安全等の障害の除去が追加され、住民生活の安全で平穏な環境づくりが前面に出されてきたのであります。

しかし、五十年からは陸上交通における交通事故の増加から、歩行者対策に加えて、自動車事故防止対策としてシートベルトとヘルメット着用の推進を大きく打ち出すとともに、最近とくに社会問題化している暴走運転に対し、指導取締りをバックアップする意味合いから広報活動による世論の喚起を図り、追放への気運を醸成する運動が取りあげられるようになり、とくに速度超過が重

大事故へ直結しているところから「経済速度」の励行や「ゆつくり運転」のキャンペーンが大々的に行われようになり、また、五十七回目の運動、二十三年の初回から数えて五十七回目に相当します。これだけの長い期間、繰り返して実施されてきたため毎年重点事項が似たりよったりであり、あるいは総花的となり、同じような行事や催し物が繰り返されていくという批判が投げかけられる者もあり、またそれぞれの施策が場合によっては十日間という声もありますが、あくまでも、この運動は年間における交通安全思想の普及のための中核的存在であり、交通安全運動でなく継続して実施すべき性質のものとして理解するべきであります。

二輪車に乗るときはヘルメットをかぶろう

夜間の事故防止 ムーンライト運動展開

秋の全国交通安全運動には、夜間の交通安全防止の問題が取りあげられ、歩行者、自転車利用者等に対する明るい衣服の着用や、反射材の活用など積極的な安全対策を講ずることになりました。夜間事故の防止は、歩行者、自転車利用者自ら注意して安全な通行をするのが重要なことではあります。夜間には、同時に大切なことは、運転者に自己の存在を早く認識させること。夜間の安全は「見える」こと。そのためには、明るい色彩の衣服も効果的でありま

が、それにも増して一層効果的なことは、反射材を活用することです。死亡事故の半数以上は夜間に発生しており、歩行者、自転車事故で、着衣が見えにくい色であったとすると、その危険は二、三倍に増しています。また自転車事故の車両側原因の約五三パーセントが前照灯の不整備、不点灯であることが夜間事故の特徴とされています。自転車の無灯火は大きく考えさせられる問題です。

「よく見えるように」
県安協では、今回運動を機会に、夜間の交通安全防止対策として、県警のニュー

「ムーンライト運動」を展開することになりました。これは、ヘッドライトから照射された光を運転者の眼に直接反射させる回帰性反射の性質を持ち、夜間遠方から運転者が視認できる反射材の最新製品「セーフティ・ビーム」を配付したり、また希望者にあつせんするものです。

最近の交通事故

死者は大幅減少

事故率はまだ全国上位

酒酔い運転も後断たず

本年上半期の県下の交通事故は、発生件数九百五十件、死者五十八人、傷者二千五百八十七人で、いずれも前年同期より減少しています。とくに死者は十三人の減で二〇・六パーセント減少という好成績です。

しかし、人口十万人当たりの事故率で見ると、全国平均の死者四・一人に比し本県は六・四人と依然と高く、昨年十二月の全国二位から八位に下がったとはいえ、まだまだ危険度の高いことを示しています。

死亡事故原因の主なものは最高速度違反、酒酔い運転、わき見運転、信号無視の順で、ここでも酒酔い運転の占める率が極めて高いことが目だっています。

死亡事故抑止も好調に推移し、八月二十一日現在で前年比は七月十八日発見の奥多摩湖転落事故の死者六人を加えても、なお二十人減少ということで、とくに七月二十一日から八月十一日までは二十二日間死者ゼロの好記録を続けました。

死亡事故の特徴を見ると、過半数が薄暮から夜間に発生し、それが速度違反と飲酒運転に起因するものが多く、薄暮から夜間にかけての街頭監視と、速度と飲酒運転の取締りに重点を指向したい。これを「ニューナイト作戦」を展開したものです。

二輪車の事故が着実に減少していることは、二輪車の安全運転にたずさわっている一員としてよろこびにたえない。しかし、二輪車事故による全死者のうち、高校生が占める割合が高いという現状は、残念な極のことである。

私には、安全運転の指導は究極的にはわれわれ指導員よりも、先生自身が直接生徒にタイムリーに指導することが、いちばん効果的であると、思っています。そのためには、自らも体得し、それによって説得力のある指導をしていきたいと思います。

今後における安全運転活動は、交通法規でも、交通道徳でも、交通安全映画でも、あらゆる機会をとらえてはタイムリーに反復して実施していくことが、大きな効果をもたらすことになると、思っています。



好評の原付実技講習
試験の合格者に対し、正しい運転方法と技能を身に付けさせる、原付による交通事故を防止するためには、講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

- 五月九日 二輪車安全運転指導員審査
- 五月十二日 五月二十一日 春の全国交通安全運動実施。きいろい羽根十万本、ポスター五千枚、リーフレット三千枚、自転車交通安全ブック二千部、横断旗三千六百枚、横断旗三千六百枚、きいろい羽根九百枚、きいろい羽根九百枚、五月二十六日 理事会、評議員会合同会議
- 六月二日 関東管区交通安全協会連合会表彰式。功労者小林英雄、田中福平、団体富士吉田安協船津支部
- 七月六日 第六回交通安全全子ども自転車大会
- 七月十日 八月三十一日 夏の交通事故防止運動

- 九月一日 機関紙第三十号発行、十三万部
- 九月十二日 理事会、評議員会合同会議
- 九月二十二日 十月一日 秋の全国交通安全運動実施。ヘリコプターによる広報、きいろい羽根十萬

- 十月三十日、交通安全優良運動表彰式
- 十一月七日、二輪車安全運転指導員審査
- 十二月二十日、機関紙第三十一号発行、十三万部
- 十二月二十日 一月十日 年末年始交通事故防止運動

- 一月八日 交通安全祈願
- 一月十九日 二月十日 交通安全全国民運動中央大会参加、金章佐々木義富、銀章山本滋、黒沢久吉、団体長坂安協、日下部交母、大里小
- 三月十日 機関紙第三十二号発行、十三万部

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

- 三月二十六日 二輪車安全運転指導員講習会
- 三月三十日 理事会、評議員会合同会議

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。



女生徒も加わって基本的な実技の体得を...甲府一高で

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。



好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

高校生の指導に情熱を

望月 郁雄

望月 郁雄

望月 郁雄

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。

好評の原付実技講習
講習は、各署で原付試験を行ったあと、即日合格者全員に対し「原付技能講習カリキュラム」にもとづき、おおむね二時間行なっています。



追突事故とは、自分の運転する車を前の車にぶつけてしまうことです。車を運転する際には必ず前方を見ているはずで、前の車にぶつかるのはまったくおかしい話です。ところが実際には交通事故の中で最も頻発するのが追突事故です。もともと車ははたしておけばぶつかるとは、ぶつかるとはぶつかるようにできていないために車を完全にコントロールすることができません。しかし車を完全にコントロールすることは、たいへん難しいことです。にもかかわらず、少し運転がうまくなると自分は車を思うようにコントロールできると過信してしまふのです。この過信が、一見バカバカしいような追突事故を引き起こしてしまふのです。そこで、ま

追突の惨事……車間距離と動く心のシグナルを



技術の過信は禁物 車間距離の原則を守る

追突事故を防ぐために

「車ははたしておけば追突するようにはできていない」ということを徹底的に頭にたたき込んでおくことです。

とつたらいかに
追突事故を防ぐには、十分な車間距離をとることだといわれます。実際にどれだけの車間距離をとればよいかなどはなかなかかわらないことなようです。安全運転学校では「速度計の半分」とわかりやすく教えています。たとえば、速度が40キロのときは20メートル以上の車間距離をとれというのです。ところが、現実には自車の停止距離だけ車間距離をとっている人が少なくないです。つまり、追突事故の危険は至るところに存在するのです。

追突をしない 運転テクニック

追突事故を起したドライバーの言い訳として「前の車が急に止まったので」とか「前の車が急に曲がったので」というのをききます。それは、先行車に追従しているときに、ボヤツとして、前の車を十分に読んでいなかったからです。前の車を読むためには、次のような方法が考えられます。

- ① プレートナンバーを見て他県ナンバーは要注意。
- ② 前車の運転者の首すじをみて、しよちゅう動いているのは要注意。
- ③ 前車のルームミラーに写っている運転者の目を見て、全くこちらを見ない場合は要注意。
- ④ トラックなどに追従する際には、自車が前車のサイドミラーに入るように車をズラしてみたりして注意を喚起する。
- ⑤ できれば後窓のワグの広い車の後につくのがよい。
- ⑥ プレートやブレーキランプが汚れている車の後にはつかないようにする。
- ⑦ 左右どちらへ行けばよいか迷っている車には接近しない。このように、先行車の動きをできるだけ読みとり、不測の事

態に備えることが、追突を防ぐポイントです。

追突をさせない 運転テクニック

これまでは、追突しないためのポイントを述べましたが、ここでは、追突させないためのポイントをご紹介します。① ブレーキランプは必ず踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。② 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。③ 確実に踏み込んで止まる。④ ブレーキランプは必ず踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。⑤ 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。⑥ 確実に踏み込んで止まる。⑦ ブレーキランプは必ず踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。⑧ 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。⑨ 確実に踏み込んで止まる。

腕自慢70人が参加 二輪車安全運転県大会

二輪車の安全な乗り方と技術を競う「二輪車安全運転腕自慢70人が参加」が、県安協主催で七月十一日山梨県運動センターで開催された。二輪車安全運転腕自慢70人が参加して技を競い合いました。



二輪車安全運転の腕自慢を競い合った

には絶えずシグナルを送って注意を喚起する必要があります。とくにブレーキを踏む場合には、次のように三度に分けて踏むようにします。① まず軽く踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。② 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。③ 確実に踏み込んで止まる。④ ブレーキランプは必ず踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。⑤ 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。⑥ 確実に踏み込んで止まる。⑦ ブレーキランプは必ず踏む。後続車に止まるかも知れないことを予報する。⑧ 強く踏み込みすぎると止まる意思表示をしない。⑨ 確実に踏み込んで止まる。

交通安全作文 おねがい、運転手さん

電岡小学校五年 横内きよみ



毎日、全国で交通事故のため、たくさんの人たちが死んだり、大ケガをしています。死んだり、大ケガをした人は、病院に入院したりしています。しかし、運転手さんの一人ひとりが交通のきまりを守って、運転していれば、交通事故はなくなるのではな

提言

若者よ
いのちの
スペアはない

死亡事故は、若者の暴走によるものが多い。人のいのちには、スペアはない。無謀なライディングによって、あなた若いのちが失われることは、まことに残念である。ルールを守ればいのちが守られる。速度の制限とか追い越しの禁止など、いろいろな交通ルールは決して他人のためでなく、あなた自身のいのちを守るためにあるのだ。ちょっとしたルールの無視や不注意によって、とにかえしのつかないことになってはならない。また、交通ルールを守るばかりでなく、いついかなる場合でもゆずり合いの精神を忘れるな。とくに、道路上の弱者である老人や子ども、サイクリストなどに対しては、いっさいの気持がたいせつである。若者よ、自分のいのちをたいせつにするともに、他人のいのちも尊重しよう。

ゆっくり運転 大賛成

関口登志子



最近「ゆっくり運転」ということはよく耳にするようになりました。結婚して十二年、ともにユツクリした性格なので、平々凡々の毎日です。しかし、そんなことを耳にするといふような心境になるのです。でも、そんなことは必要であることはいかに交通事故が多いかということであり、思わぬ「うちの人は大丈夫かしら……」と思ったりします。幸い夫も元氣なわんぱく子どもも元氣なわんぱく盛りの今朝も夫は元氣に会社へ出かけて行きました。「行ってくるぞ！」と行ってらっしゃい。交通事故に気がつけてネ。「うん」。「スピードを出さないようにネ」。「うん」。「忘れものはないでしょ」。「うん」。「気をつけて運転してくださいよ。子連れでもらい手がないんですからね」。「わかった。わかった」といった調子です。こんな会話は今朝にかぎったことではなく、毎朝の日課となつていっています。夫は、わたくし以上に交通安全防止には注意しているようですが、たとえそれがわたくしの方通行だったとしても、毎朝声をかけずにはいられないのです。夫は、仕事から帰って来ると、まず子どもの安全を確かめます。とくに五歳の次男には、「きよ

(主婦)

交通安全協力者に保障制度

最高は死亡の300万円

甲西町で見舞金支給

をつくって欲しい」という声も高まっています。甲西町では、このような事情のなかで、「交通安全指導協力者に対する災害見舞金支給条例」を制定し、交通安全指導に携わって交通事故に遭った協力者に、傷害の程度に応じて一定の見舞金を支給することにしました。

見舞金は、死亡した場合が300万円、身体障害を残留し、かつ最高300万円、重傷が同50万円、軽傷が同10万円となっています。これはもちろん十分な措置とはいえませんが、公的活動の犠牲者に、町が公的

交通安全協力者が事故に遭った場合、地方公共団体が公費で見舞金を出すと、この制度が甲西町で発足しました。交通安全の指導、交通整理については、この市町村でも交通安全協会、交通指導員、交通安全協会の会、PTAの会員らが民間の善意として絶えず交通事故の危険にさらされながら活躍しています。しかし、いざ事故に遭ったときは、それが善意の社会奉仕活動であるということから、災害補償等の救済規定が確立されていません。このため「協力者を保障する制度



ことしから新しい課題が増えたことも自転車大会

小学生の自転車の安全な乗り方山梨県を決める交通安全全日本大会も自転車大会が県定協主催、県教委後援で六月二十七日甲府市立東小学校で開催され、地区代表の十八校七十二人が県下一位の座と全国大会への出場権をかけて競い合いました。この大会は、自転車の安全教育のための行事で、この大会は、交通安全と道路標識等についての知識

高根東小が連勝

交通安全全日本大会

ぜんちやん まだゆきお



減点パパはいま何点 事故証明や経歴証明も

自動車安全運転センター

地震のときは

無料で秘密も厳守されます

調停センター開設

減点パパはいま何点 事故証明や経歴証明も

自動車安全運転センター

地震のときは

無料で秘密も厳守されます

調停センター開設

相談室

事故調停の知識

調停委員会

甲府地方・家庭裁判所に

交通安全年間

スローガン募集

交通安全年間スローガン募集

全日本交通安全協会では、昭和五十一年に使用する交通安全年間スローガンを募集します。

昭和五十一年八月二十一日から九月三十日まで

募集期間

募集部門

運転者むけ

歩行者むけ

子どもむけ

応募要領

運転者、歩行者むけの応募資格は年齢を問わない

スローガンで住所、氏名、年齢、職業を明記すること

枚数に制限はなく、地域、職場ごとの応募を歓迎する

ことむけは小・中学生に限る

普通はがきに一スローガンとし、学校名、所在地、学年、氏名を明記すること

枚数に制限なく、学校単位での応募と、運転者、歩行者むけの応募も歓迎する

作品は自作、未発表のものに限る

送り先

東京都中央郵便局私書箱三十八号一〇〇一九一毎

日新聞社事業部「交通安全年間スローガン」係

発表

五十一年十二月一日

表彰式

五十一年一月東京で開かれる第十七回交通安全全国国民運動中央大会の席上で行う

賞

運転者むけ、歩行者むけの最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞金十万円

佳作三十点に全日本交通安全協会賞状と賞金各五千元

子どもむけ最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞品(三万円相当)として賞品(三万円相当)を受賞者の在学に記念品として交通安全教育機材(七万円相当)佳作十五点に全日本交通安全協会賞状と賞品(各五千元相当)

減点パパはいま何点 事故証明や経歴証明も

自動車安全運転センター

地震のときは

無料で秘密も厳守されます

調停センター開設

減点パパはいま何点 事故証明や経歴証明も

自動車安全運転センター

地震のときは

無料で秘密も厳守されます

調停センター開設

相談室

事故調停の知識

調停委員会

甲府地方・家庭裁判所に

交通安全年間

スローガン募集

交通安全年間スローガン募集

全日本交通安全協会では、昭和五十一年に使用する交通安全年間スローガンを募集します。

昭和五十一年八月二十一日から九月三十日まで

募集期間

募集部門

運転者むけ

歩行者むけ

子どもむけ

応募要領

運転者、歩行者むけの応募資格は年齢を問わない

スローガンで住所、氏名、年齢、職業を明記すること

枚数に制限はなく、地域、職場ごとの応募を歓迎する

ことむけは小・中学生に限る

普通はがきに一スローガンとし、学校名、所在地、学年、氏名を明記すること

枚数に制限なく、学校単位での応募と、運転者、歩行者むけの応募も歓迎する

作品は自作、未発表のものに限る

送り先

東京都中央郵便局私書箱三十八号一〇〇一九一毎

日新聞社事業部「交通安全年間スローガン」係

発表

五十一年十二月一日

表彰式

五十一年一月東京で開かれる第十七回交通安全全国国民運動中央大会の席上で行う

賞

運転者むけ、歩行者むけの最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞金十万円

佳作三十点に全日本交通安全協会賞状と賞金各五千元

子どもむけ最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞品(三万円相当)として賞品(三万円相当)を受賞者の在学に記念品として交通安全教育機材(七万円相当)佳作十五点に全日本交通安全協会賞状と賞品(各五千元相当)